

# 競技注意事項

## 1 競技規則について

2023年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

## 2 招集について

- ①第3ゲート（1500mスタート地点後方）に招集所を設置する。競技者は招集開始時刻に集合し、できる限り三密状態を避けること。
  - ②円盤投・ハンマー投は、投てき場にて現地招集とする。
  - ③招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
  - ④招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- ※第2競技場からスタジアムまでの距離が遠いので、競技者は時間に余裕を持って行動すること。
- ⑤招集完了5分前までに招集所で待機し、最終点呼を受けること。その際アスリートビブス（ナンバーカード）、競技用靴等の点検を受けること。
  - ⑥招集は、本人が招集所において受けること。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。この場合代理人を認める。
  - ⑦リレーに出場する競技者で、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。

## 3 アスリートビブス（ナンバーカード）について

- ①アスリートビブス（ナンバーカード）は胸と背に1枚ずつ確実につけること。  
女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。  
ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- ②トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。  
腰ナンバーは招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後はフィニッシュライン前方のゲート2で回収する。
- ③ランニングシャツの裾を確実にランニングパンツの中に入れ、腰ナンバーが見えるようにすること。

## 4 競技場で使用する競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。

- ②靴底の厚さは以下のとおりとする。（このルールは2024年10月31日まで適用）

800m未満のトラック種目	20mm以内
800m以上のトラック種目	25mm以内
三段跳	25mm以内
三段跳以外のフィールド種目	20mm以内

- ③靴底の厚さの検定は必ず実施するものではないが、招集所審判長およびトラック・フィールド各審判長の判断により、検定を実施する場合がある。

## 5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本競技会においては特に申し出なくとも良い。

## 6 練習について

①練習会場は第2陸上競技場を使用し、下表の割り当てに従って安全に利用すること。

1～2レーン	中距離・長距離・競歩の周回練習 ジョグは不可
3～6レーン（ホーム）	短距離（直線流し、SD、加速走等）
3～6レーン（ホーム以外）	リレー（リレー使用時以外はホームと同様）
7レーン（ホーム）	100mハードル
7レーン（第1曲走路～バック）	400mハードル（女子）
8レーン（ホーム）	100mハードル／110mハードル
8レーン（バック）	安全確保のため使用しない。
9レーン（ホーム）	110mハードル
9レーン（第1曲走路～バック）	400mハードル（男子）
9レーン外側（ホーム以外）	ジョギング
フィールド内芝生	投てき実施時以外は使用可 メディシンボール使用は限定区画内のみ
跳躍ピット	Aピット使用可（係員の指示による）

②第2競技場のメインスタンド下雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。

第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。

雨天走路は一方通行で使用する。

③8時から競技開始15分前までは、カンセキスタジアムでの練習を許可する。トラックの使用区分は別に定める。ただし、跳躍・投てきピットおよび芝生フィールド内での練習は認めない。スターティングブロックやハードル等は練習用の用器具庫から自己の責任で持ち出し、使用後は元の場所に格納すること。

④カンセキスタジアムのバックスタンド下雨天走路は、8時から使用可とする。使用区分は別に定める。衝突事故に注意し、安全に使用すること。

⑤練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。

⑥第2競技場の開放時間・場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。

⑦投てき練習については、競技場所での競技前の練習試技のみとする。

⑧カンセキスタジアム1階管理通路および2階の外周での練習は不可とする。

総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。（ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。）選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習は禁止する。（メディシンボール投げやハードルを用いた練習等も禁止。）

⑨第2競技場の利用時間は17時30分頃までとする。これ以降の練習は、カンセキスタジアム内にて行う。

## 7 競技者の入退場について

①招集後のスタジアム内への入場は、第3ゲート（1500mスタート地点付近）のみとする。競技終了後は競技の妨げにならないように注意し、最寄りのゲートから退場する。

②競技開始以降のスタジアム内競技場所への出入りは競技者のみ許可する。付添人・指導者等の入場は不可とする。

③トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を通過してスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。

④フィールド競技者も他の競技の妨げにならないよう、係員の指示に従うこと。

## 8 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順、リレーについて

- ①トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②トラック競技の決勝の組・走路順は本部で抽選し、速報サイト等に示す。
- ③リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、第1組目の招集時刻の1時間前までにTICに提出する。リレーオーダー用紙はTICで配布する。
- ④リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加すること。上衣のデザインが統一されていれば、シャツ・パンツ・タイツの形状が異なっても良い。
- ⑤タイムによる次のラウンドに進む競技者の決定については、写真判定主任が0.001秒単位まで測定して出場者を決定する。それでも決定できない場合、次のラウンドでレーンに空きがある場合には同着の競技者（チーム）を次のラウンドに進める。レーンに空きがない場合には抽選で進出者を決定する。(TR 21.)

## 9 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

(※審判長の判断で、変更することもある。)

種目	練習	競技
走高跳	男子	1.70/1.85 1.75~1.80~1.85~1.90~1.95~2.00・・・
	女子	1.30/1.45 1.35~1.40~1.45~1.50~1.55~1.60・・・
棒高跳	男子	2.70/4.00 2.80~3.00~3.20~3.40~3.60~3.70~3.80・・・
	女子	1.70/2.50 1.80~2.00~2.10~2.20~2.30~2.40・・・
八種走高跳	1.40/1.70	1.45~1.50~1.55~1.60~1.65 以後 3cm
七種走高跳	1.20/1.40	1.25~1.30~1.35~1.40~1.43 以後 3cm

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
- ②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。
- ③十種競技の棒高跳の高さについては、現地にて相談の上実施する。
- ④雨天の際は、協議の上変更することもある。
- ⑤三段跳における踏切板の距離については、男子11m・女子9mとする。

## 10 競技用器具について

- ①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールの検査は、招集後現地にて行う。やりの検査については、別途指定する。
- ②検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。したがって、競技中に他の競技者が使用することを認める。

## 11 競技について

- ①競技者、指導者等の関係者は競技規則を遵守すること。  
競技規則に違反する行為や極めて不適切な行為をした競技者に対してはCR 18.により、当該者に警告を与えたり、競技会から除外したりする。
- ②長距離種目において競技運営上、著しく遅れた選手や体調不良で競技続行が不可能と判断される競技者に対し、審判長が競技を中止させる場合がある。下記の所要時間を超えた場合、新しい周回に入れない。

	男子	女子
5000m	18分	20分
10000m	40分	50分
5000m 競歩	30分	33分

※ 競技運営上、男女混合レースになった場合は、女子の制限時間とする。

- ③3000m以上の種目で1回のレースに多数の競技者がいる場合、グループスタートを実施する。
- ④競技場設備の関係で、円盤投・ハンマー投および十種・八種やり投は、投てき場で実施する。
- ⑤各競技の結果や番組編成等はWeb上の速報サイトに掲載する。
- ⑥本大会は、全国都道府県対抗男子・全国女子駅伝競走並びに東日本女子駅伝大会の栃木県選手選考会を兼ねる。(男女10,000m 男女5,000m 男女3,000m)

## 12 その他

- ①T I C (Technical Information Center) をスタジアム2FのAゲート内に設置する。  
T I Cでは、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。
- ②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。
- ③各チームのスタジアム内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。コンコース内にテントを設営することは認めない。また、競技場外の公園敷地でのテント設営は一切禁止する。  
なお、各チームベンチとして自由席・雨天練習場・更衣室等を占領してはならない。
- ④第2競技場の2Fコンコースは各団体が譲り合って使用すること。
- ⑤貴重品をはじめ物品の管理は、各自・各チームの責任の下で行う。
- ⑥スタジアム内1Fのトイレは、100mスタート付近の正面スタンド内トイレを使用すること。出入りについては100mスタート付近からの出入りに限定する。
- ⑦更衣室については、男女ともスタジアム2Fトイレ内の更衣スペース等を使用する。  
また第2競技場の更衣室も使用可とする。ただし更衣室内に長時間滞在しないこと。
- ⑧スタジアムでの横断幕設置は、観客席最前列の手すりにひもで縛って設置すること。  
ただし、メインスタンドおよび1～4ゲート上の設置は許可しない。また、競技の妨げとなる状態で設置しないこと。横断幕の縦の長さが長く、競技場内の競技者の移動や競技の妨げになる場合には、大会運営本部の判断で撤去する場合がある。なお、のぼり旗の設置は全面禁止とする。
- ⑨大会が数日にわたって開催される場合、横断幕は大会最終日まで設置したままで良い。
- ⑩第2競技場の会議室を整理運動後の休憩場所として開放する。会議室を休憩場所として使用する際は、長時間滞在しないこと。

## 13 災害時の避難場所

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。

## 14 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する事項

- ①新型コロナウイルス感染拡大状況により、参加申込み完了後に競技会を中止とする場合もある。日本政府または各都道府県による緊急事態宣言が発令した場合は、県外在住の参加者に対して参加を断る場合もある。その際は栃木陸協 Web サイト等で通知する。また、競技中に発雷等で天候が悪化した場合は、その時点で競技会を中止する場合もある。
- ②有観客での競技会開催とするが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、無観客に変更する場合がある。その際は栃木陸協 Web サイト等で通知する。
- ③競技会直前に発熱等の症状が出た者は、参加を控えること。
- ④競技会開催中に体調の異変を感じた場合は、速やかに代表者や顧問教諭に連絡し、主催者の指示を受けること。
- ⑤マスクの着用は個人の判断とする。その他各チーム等の方針に則る。ただし、発声を伴う応援（集団応援も含む）の際はできる限りマスクを着用する。
- ⑥運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。
- ⑦ゴミは自己責任で持ち帰る。
- ⑧その他、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応については、栃木陸協 Web サイト等で周知する。